

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	単なる生活支援の充実だけではなく、利用者的人間としての成長を支える支援を目指しています。
	内容	本事業所は、法人内で利用者一人ひとりのニーズにより丁寧対応する体制を整備するために、従前の就労継続支援B型事業からの機能分化を図り、平成29年度から生活支援事業へと事業の変更を図りました。しかし、この変更の目的には生活支援の充実のみではなく、同時に就労による社会参加をより充実した職員体制で支援していくことも目的としており、事業所はひとり一人が働く場であることを支援の根底に置いており、成人として、社会人として仕事をして地域にも貢献できるよう、利用者の現在から将来を見据えた支援を提供すべく努力を傾注しています。
2	タイトル	事業計画に毎年重点項目を設定し、その成果と課題について中間報告も作成しています。
	内容	毎年度作成している事業計画書には、計画の背景や事業概要、理念、方針、活動内容、年間行事や防災計画等、11の項目について、記載されています。この事業計画には毎年度の重点課題・目標を具体的に記載し、1年間に特に行うべきことを明確にしています。また、事業報告においてはその重点目標に対する成果と課題についての丁寧な振り返りを行っています。年度の途中には中間報告書を作成し、その際にも重点目標について検証しています。
3	タイトル	職務経験年数の長い職員を中心にチームを作り、計画の策定に取り組み始めています。
	内容	今年度新たに建てられた事業所には、職員も利用者も同法人の複数の事業所から集まっているため、利用者支援の方法や日々の作業の進め方、環境づくり、職員間のコミュニケーションの方法など、事業所の一切の運営は、職員が現場で話し合いながら1から作り上げています。施設長はその役割として、率先したリーダーシップを発揮していますが、利用者によりきめ細やかに対応していくため現場の意見を反映した運営を目指して、職務経験が長い中堅職員を中心にチームで計画の策定にも取り組み始めました。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	充実した危機管理マニュアルの作成を期待します
	内容	危機管理マニュアルではヒアリ・事故・てんかん発作・虐待・災害についての対応とAED使用方法について編集されています。ただ、様々な天災は予想を超えて訪れることがあります、感染症も多種多様です。火災・地震・風水害時の状態や避難方法、備蓄される水分・食糧や生活用品保管などについて明文化し、職員間で共通認識が必要と考えます。特に避難については、利用者の特性に合わせ、無事に移動する方法検討もなされなければなりません。感染症についても感染経路・予防・感染拡大防止等について看護師を中心に明文化していくことを期待します。
2	タイトル	利用者の情報を職員間で共通理解しようとする意識を更に高く持ち、共通理解方法に工夫や改善がなされることを望みます
	内容	利用者理解をするために、利用者の個性を記した「支援上の留意点」や、「個人調査書」を読み込み、支援にあたっています。個別支援計画の作成・見直しや、ケース検討は、職員間で意見を出し合い、個別支援計画の推移から現在の状況に至るまで、情報の共有を図っています。毎日作成するミーティング記録も特定の職員を対象に記載内容の向上を図っています。が、それでも情報共有に流れがあるとの反省の声があります。利用者へのサービス向上のために職員一人ひとりが知ろうとする意識を更に高く持ち、情報共有方法が工夫されることを望みます。
3	タイトル	若手職員のとりまとめ役としての、中堅リーダー層の育成を急ぐことが求められます。
	内容	職員の育成については個別の研修計画も作成していますが、日常業務の中により介護度の高い利用者への対応については、現場で育っていく必要性も見受けられます。業務分担表なども作成されて役割や責任の所在が明確になっているのは、一部の職員に限られています。若手職員を育成するOJTの担当者を個別に定めたり、いくつかのプロジェクトを立ち上げてそのリーダーを任せたりすることで、次のリーダー層を早急に育成していくことが求められます。